

施策の具体的な展開のあり方にかかる論点

資料 1 「新しいみえの文化振興方針（仮称）」骨子（たたき台）の では、施策の方向性として次の 6 つを整理している。

それぞれのねらいを下のとおりとした場合、各施策を具体的に展開するにあたって、どのような視点（切り口）で施策を捉えるべきか（ターゲット、プレーヤー）具体的な取組としてどのようなことが考えられるか（アクション）

【方向性 1】 トップを伸ばす

（ねらい）

県内で活動する個人・団体の目標になるとともに、みえの文化の素晴らしさを広く県内外に発信するキーパーソンを育てる

（取組例）

三重県でトップレベルの文化芸術活動を行う個人・団体のさらなるレベルアップを図る

【方向性 2】 次代を育てる

（ねらい）

特にこれからを担う若い世代が文化に触れる機会を増やすことで、10 年後の本県を担う人間性の豊かな人材の育成に資する

（取組例）

子どもたちが文化施設を訪れ、文化にふれ親しむ機会をより多く作るなど文化芸術活動の裾野を広げる

【方向性 3】 磨いて伝える

（ねらい）

今ある文化資源に光りをあて、さらに磨きをかけて次代に伝えることで、未来の県民の皆さんが自らの地域に誇りと愛着を感じられるようにする

（取組例）

地域の歴史・文化遺産や生活文化にさらに磨きをかけて継承するとともに、地域においてより活用されるようにする

【方向性 4】 拠点をつなぐ

（ねらい）

文化施設の集積を生かして、「文化交流ゾーン」を、より多くの人を訪れ、さまざまな文化に接し、感性を高めるとともに、文化に新しい息吹を吹き込むことができるような場とする

(取組例)

「文化交流ゾーン」を構成する文化施設が、芸術性の高い場の提供とともに、おもしろくて、楽しい空間づくりを行うなど拠点機能を強化することに加え、事業や運営における連携を一層強化する

【方向性 5】 かけ合わせて生み出す

(ねらい)

ものづくりや観光に文化の側面から新たな価値を加え、活性化する
また、新たなみえの文化を創造するとともに、広域的に連携することで、みえの文化の魅力を高める

(取組例)

- ・ 文化資源を活用することにより、デザイン面などの商品開発や観光地のさらなる誘客につなげる
- ・ 多様な文化を受け入れ、交流し、創発する中で新たなみえの文化の創造につながるようなチャレンジを支援する
- ・ 県立の文化施設が県内外の文化施設と展示や調査研究における連携を一層強化する

【方向性 6】 効果的に発信する

(ねらい)

県民の皆さんに郷土の魅力を再発見してもらう
また、県外（海外を含む）の方々にみえの文化の魅力を伝え、体感してもらい、さらに好きになってもらう

(取組例)

ターゲットとコンテンツを明確にし、それぞれに相応しい手法（広報媒体）でみえの文化に係る情報を発信する